

第三章 17) シュミツ耕地 (ポンタール駅)

*森部伊三郎、1913年5月、第二雲海丸、(第5回移民) (「平野 25 周年史」)

*長瀬明、1913年熊本県熊本市より5歳で渡伯、ビラ・コスチーナより転じシュミツ耕地へ。

(注) フランシスコ・シュミツ氏は移民上がりで一代で67耕地を所有する。その銅像に「移民よ努力せよ」と書いてある。現在リベイロン・プレート市内バス・ターミナル横に当時モジアナ線に活躍した機関車とシュミツ銅像有り。



シュミツ耕地 ポンタール駅

18) ペローバ耕地 (オルランジャ駅)

ジアナ線バタタイス始発駅～オルランジャ終点駅

(バタタイス、サンタ・アンナ、サレスオリベイラ、オルランジャ)

*掘田七平、1913年福岡県三井郡18歳で渡伯する。(「ブラジルの同胞活躍の姿」115ページ)

*藤井福之助、1914年5月、帝国丸で畑中仙次郎通訳に引率され入耕。(「平野 25 周年史」)

*槇野藤太郎、1914年5月 同 同

*平川敏一、1914年5月 同 同

*引地良作、1914年5月 同 同

*畑中善輔、1927年6月、神奈川丸、山口県阿武郡生雲村出身、オルランジア駅付近入耕後、転々と移転1935年プ・プルデンテ市に移転、家具製造。(「ブラジル日系紳士録」644ページ)

*片岡助市、1927年12月、ラプラタ丸、広島県隻三郡和田村出身、同駅タピラツバ耕地に就労すること2ヶ年。ノロエステ線を転々として、後年パラナ州サンタ・セシリア町日勝区に落着く。
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」719ページ)

*山口武、1929年6月、熊本県八代市郡築10番地出身、同駅オーリョ・デ・アグア耕地で義務農年遂行後、リンコン駅付近で3年働き、さらにソロカバナ線でコーヒー園を購入するがコーヒー不況時代で数年後売却、奥地に幾年か留まり、聖市近郊に移転して蔬菜栽培に転じトマト、ジャガイモを作付ける。
(「熊本県人発展史」483ページ)

*山中政之、1929年、博多丸、三重県三重郡出身、同耕地にて2農年就労後、転々と移転1946年オリンピア市に再移転、自動車修理店を開業。(「ブラジル日系紳士録」718ページ)

*稗田鶴吉、1929年12月、サントス丸、熊本県鹿本郡来民町出身、同駅サン・ジョアキン耕地で義務農年遂行後、ノロエステ線へ移転、さらにスザノ地方でジャガイモ栽培に従事する。
(「熊本県人発展史」395ページ)

*上西時男、1930年6月、サントス丸、宮城県刈田郡白石町出身、同駅アグードス耕地に3ヶ年就労、この頃コーヒーの大暴落で、コーヒー園に働く新来移民は食べるだけの収入も乏しくどん底生活であった。後年パラナ州トレスバラス移住地カビウーナ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」490ページ)

*林康男、1932年3月、サントス丸、滋賀県伊香郡香具村出身、同駅アグードス耕地で義務農年遂行後、アララクワラ線に移転し綿作に従事すること8ヶ年。後年パラナ州トレスバラス移住地パイネーラ区に入植。
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」668ページ)

*小林秀司、1932年、モンテビデオ丸、福島県安達郡出身、同駅サンタ・ジルツルテ耕地は配耕2農年就労、モーロ・アグードで契約農、後年カンポ・モロン市在住。(「ブラジル日系紳士録」855ページ)



ペローバ耕地 オルランジャ駅